

水無月 愛南文芸

さわらび短歌会

六十年過ぎて枯れゆく竹藪に

木の芽起しの雨降り止まず

久々に友の歌稿をパソコンに

打ちおれば窓に小鳥の来鳴く

母の遺す支柱の紐はもと野良着

長さそろいてしやんとしており

サクラヒメ嫁の持ち来て活けくれぬ

淡き香ふわわり漂うま昼

三足の運動靴を干す家より

聞こゆる声のどれも弾みて

巣立ちゆく児らの放てるバルーンが
晴れ渡る空に溶けてゆきたり

花冷えに湯気立つ茶碗のあたたかさ

明日を語る夫婦でいたい

供養堂に安置されたる母の遺骨

読経聞きつつ思ひこみあぐ

子と孫に手をとられ来し「黄の丘」は

ミモザ菜の花幸に満ちおり

コンテナを積み重ね車両が過ぎてゆく

通院帰りの踏切のまえ

菊川俳句会

口ずさむバラ抜き唄や初鯉

万物の息柔らかき余花の頃

弥生尽またひとつ閉鎖の漁港

馬瀬山の桜吹雪に紫電飛い

流鏑馬の勇まし走り空を突く

かなづちな金魚に生まれ全うす

我が家が浮島と化す大田植え

青時雨先達の句碑訪ねけり

中川 一喜

安岡留美子

和田 靖樹

河野 孝

河野 清美

浅野 勇一郎

福田 りさ

宇野 天弓

藤井 擴

前田 知子

河上 明美

水野美代子

澤近 正弘

松本マス子

門屋あけみ

岩村千代子

生田八寿子

前田 充

死亡後の手続きについては
町ホームページをご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ